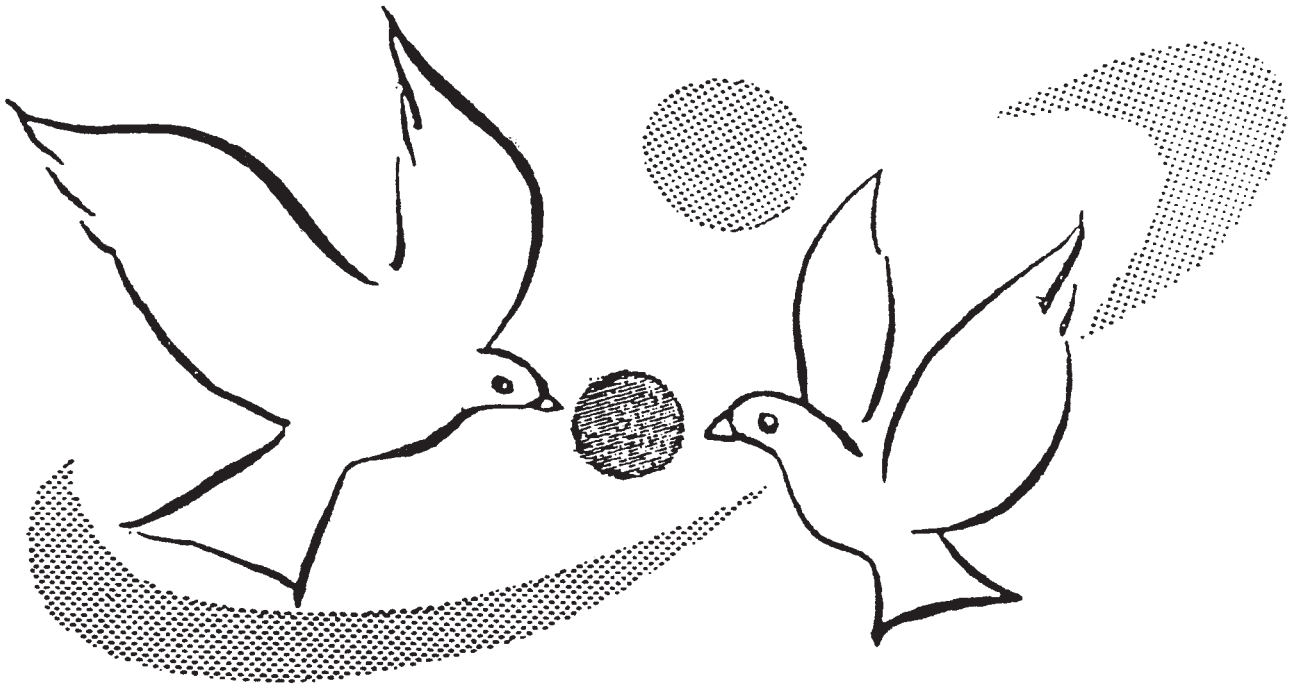
広島を訪ねて

平和のための
小中学生広島派遣団文集



―平成30年度―

（2018年度）

城　陽　市

市の木　梅

昭和47年（1972年）10月24日市制施行を記念し制定。

南部丘陵地に広がる青谷の梅林では、春になると一面に漂うかぐわしい香りが、わたしたちの心をなごませてくれます。

市の花　花しょうぶ

昭和57年（1982年）11月７日市制施行10周年を記念し制定。

豊かな地下水に恵まれ、古くから栽培されている“花しょうぶ”は京阪神随一の生産高を誇り、多くの人びとに親しまれています。

市の鳥　しらさぎ

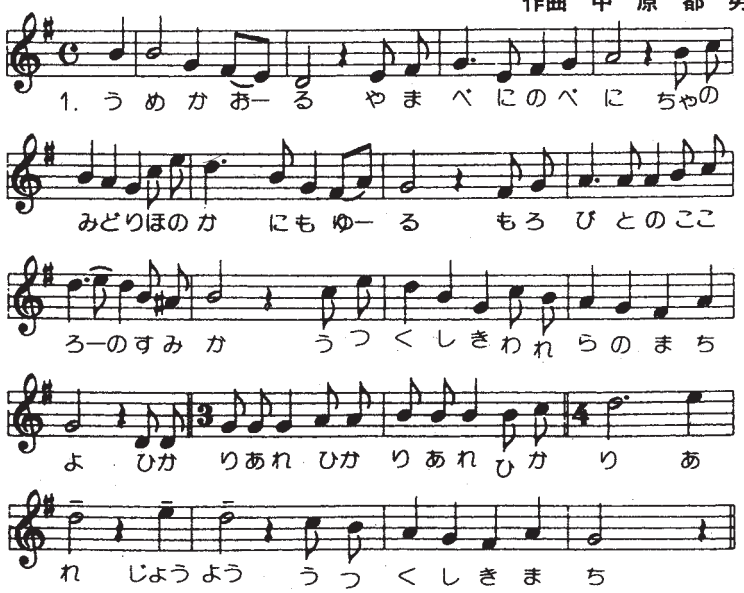
平成19年（2007年）11月７日市制施行35周年を記念し制定。

『しらさぎ』は、城陽市全域で見ることができ、本市の歴史や文化に非常に関わりの深い鳥です。また、『しらさぎ』の存在は、環境保全や自然と人との共生を実現するシンボルとなり、その白く優雅に舞う姿は、活き生きと未来に羽ばたいていく城陽市をイメージさせます。

城　陽　市　歌

明るくのびのびと

作詞　龍　村　孟　雄
作曲　中　原　都　男



2．松あおき　鴻の巣山に
鳥啼きて　明るき陽ざし
こだまする　槌のひびきに
ひらけゆく　われらのまちよ
栄あれ　栄あれ　栄あれ
城陽　ひらけゆくまち

3．砂しろき　木津の流れに
黄金なす　稲穂のみのり
山の幸　野の幸さわに
ゆたかなる　われらのまちよ
恵あれ　恵あれ　恵あれ
城陽　ゆたかなるまち

昭和34年（1959年）２月15日制定
（昭和47年（1972年）５月３日市制施行に伴い、町歌を市歌とした）

城陽市章

城の文字と太陽のイメージを合わせたマーク。

町制施行４周年を機に制定されました。

昭和30年（1955年）４月26日制定
（昭和47年（1972年）５月３日市制施行に伴い町章を市章とした。）

城陽市民憲章

かぐわしい梅の香りと清らかな水のわがふるさとを
愛し、先人の遺した文化を育み、平和でかがやかしい
城陽の未来を創造するために
わたくしたち城陽市民は

一、自然を生かし　美しい緑を育てましょう
一、教養を深め　豊かな文化をつくりましょう
一、心身を鍛え　働く喜びを大切にしましょう
一、隣人を愛し　ふれあいの輪を広げましょう
一、秩序を守り　やすらぎのまちを築きましょう

昭和57年（１９８２年）11月７日制定
（市制施行10周年を記念し制定）

城陽市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、核兵器の廃絶と軍備の縮小は、全人類ひとしく希求しているところである。

わが国は、唯一の被爆国として、非核三原則の堅持はもとより、再び戦争による惨禍を繰り返してはならない。

国際平和年にあたり、わが城陽市は、憲法の精神に基づいて自由と平和を愛し、思想・信条を越えて、永遠の平和都市であることをここに宣言する。

昭和61年（1986年）12月23日宣言

城陽市役所庁舎　南玄関前

平成３０年７月２６日（木）

城陽市役所集合

出発（小学生６年生３１名・中学生２名　合計３３名）

昼　食

平和記念資料館（東館）見学

資料館地下展示場・情報資料室見学

被爆者講話（寺本貴司氏）

旅館　到着

入浴

夕食等

ミーティング

（各自持ち寄った折鶴を束ねてメッセージを書きました）

消　　灯

平成３０年７月２７日（金）

旅館出発

↓

広島平和記念公園到着

原爆の子の像

↓

原爆死没者慰霊碑

↓

原爆ドーム

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

広島風お好み焼き体験（昼食）

広島市出発

城陽市役所帰着

解　散

目　次

広島派遣団に参加して　久津川小学校　6年　浅井鉄平　1
広島へ行って考えたこと　久津川小学校　6年　小松はな　2
平和について学んだこと　久津川小学校　6年　田村渉真　2
原爆　久津川小学校　6年　千野根匠吾　4
戦争の恐ろしさ　久津川小学校　6年　長谷川海凪　4
広島へ行って学んだこと　古川小学校　6年　朝子麻衣　5
広島で学んだこと　古川小学校　6年　阪部颯来　6
広島で学んだこと　古川小学校　6年　澤本紗季　7
広島で分かった原爆のおそろしさ　古川小学校　6年　與那覇栞帆　8
戦争は勝っても負けても良いことは無い　久世小学校　6年　奥田颯太　9
広島派遣団に参加して　久世小学校　6年　黒川壮　10
広島に行って　久世小学校　6年　松井一真　11
広島で、学んだ事　久世小学校　6年　宮野颯士　12
広島を通して　久世小学校　6年　宮野楓吾　12
原爆のおそろしさ　深谷小学校　6年　大塚奈稀　13
広島派遣団に参加して思ったこと　深谷小学校　6年　大森咲和　14
初めて見た原爆ドーム　深谷小学校　6年　嶋原咲太朗　15
世界が一つに　寺田小学校　6年　西村香歩　16
平和は幸せ　寺田小学校　6年　森本もも　17

原爆について学んだこと　寺田南小学校　6年　浅尾千尋　18
ヒロシマの命　寺田南小学校　6年　髙橋美葵　19
広島に行って　寺田南小学校　6年　髙山ひなた　20
戦争の恐ろしさと平和の大切さ　寺田西小学校　6年　中村煌生　21
広島派遣団に参加して　寺田西小学校　6年　森下悠樹　22
広島派遣団に参加して　寺田西小学校　6年　矢野脩也　23
広島に行き学んだ二日間　富野小学校　6年　島本翠　23
広島に行ってみて　富野小学校　6年　早田彩乃　24
広島に行って学んだこと　青谷小学校　6年　一樹采実　25
広島に行って学んだこと　青谷小学校　6年　谷口紗彩　26
広島に行って学んだこと　青谷小学校　6年　中嶋由依　27
はじめて知った原子爆弾の怖さ　青谷小学校　6年　米田麗央　27
「広島派遣団」の一人として　西城陽中学校　1年　南野つぐみ　28
広島に行って　南城陽中学校　1年　波戸瀬あおい　29

広島派遣団に参加して

久津川小学校　6年
浅　井　鉄　平

ぼくは、被爆者の方の講話や、資料館の資料等を見て、戦争はざんこくで悲さんで、絶対にしてはいけないものだと改めて知ることができました。

資料館で初めて本当の原爆ドームの姿を見ることができました。たった1発の爆弾で10何万人という人が死んだり、けがをしたりするほどの威力で、それが今、城陽市に落ちると考えるとこわくて、こわくてたまりません。被爆者の方が書いた本を資料館で読んでみると、家族なのに、自分の家族だと分からない程大やけどをしていて、すごく悲さんな体だったそうです。この本を読んで、ぼくは、「戦争を止める方法はなかったのか」と疑問に思いました。戦争を止めていれば「国民のぎ牲者は少なくなっていたかもしれないなぁ」と思いました。しかも戦争に勝ってもたくさんの死者が出て何の利益も無いので「戦争なんて無意味だ」とも思いました。

あと、バスの中で聞いたさだ子さんの話も、かわいそうだと思いました。さだ子さんは原爆によるしょう害を体にわずらいましたが、千羽づるを折ると治ると信じ、折りましたが、手がしだいに動かなくなり、千羽折れないまま亡くなりました。しかし、クラスメート達が協力して折り、千羽になったそうです。ぼくはこの話を聞いてかわいそうだし、原爆で病気になることが学べました。

そして、ぼくが一番広島派遣団に参加して、心が動いたことは、原爆の子の像に、大量にあった折りづるです。その折りづるは外国や全国の学校からおくられてきたものです。ぼくはこの折りづるを見たとき「さだ子さんの物語が今も受けつがれているんだなぁ」と感動しました。

ぼくは原爆のおそろしさ、戦争はしてはいけないこと、そして戦争のひ肉さをこの城陽市平和のための小中学生広島派遣団に参加して、改めて気づきました。そして、ぼくが気づいたことを皆に伝え、戦争はざんこくで悲さんで絶対にしてはいけないものだと世界中の人に知ってもらいたいです。このごろはないけど北朝せんのミサイル発射は激化すると、戦争のひき金となってしまうのでやめてもらいたいです。ぼくは世界中が平和になり、仲がいい世界になってほしいです。ぼくはこの城陽市平和のための小中学生広島派遣団に参加してかけがえのない友達ができたり、戦争について色々なことが学べました。来年も参加したいけど、参加できないのが残念です。今回参加できてよかったです。

広島へ行って考えたこと

久津川小学校　6年
小松はな

私が広島派遣団に参加した理由は、友達にさそわれたことと、広島派遣団のチラシを見て、戦争ってどんなものなのか知りたいと思ったからです。

一日目は、平和記念資料館へ行きました。こげている服や弁当箱などがあり、一番印象に残ったのは、ぼろぼろになって穴が開いていた弁当箱です。鉄に穴を開けるほどのしょうげきというのは、人間にとっては、とても強いもので、そのしょうげきを受けた人は、つらかっただろうと思いました。

夜のミーティングで行動班のみんなで、つるをたばねた後、反省会をしました。一日目は、今まで知らなかったことがたくさん分かった一日でした。

二日目に、広島平和記念公園と原爆ドームと追悼平和祈念館に行きました。広島平和記念公園で原爆の子の像のおくにあるブースにつるをかざったとき、たくさんのつるにおどろきました。すごい量のつるがあって、こんなにたくさんのつるがあるということは、たくさんの人が、原爆が落ちた広島のことを考えているのだなと思いました。

原爆ドームは、ボロボロで、鉄骨がむき出しになっているところが何ヶ所もありました。原爆ドームを見ていると、本当にここに、爆弾が落ちてきたんだという気持ちになりました。ガイドさんの話では、原爆ドームの上空が三十万度、その近くの地面は六千度ぐらいだったとおっしゃっていて、三十万度ってすごく熱いんだろうな、人間からしたらとてもすごい熱さだったんだろうと思いました。

私は広島派遣団に参加して、戦争はしてはいけないもので、原子爆弾は、作っても使ってもいけないものだということが分かりました。たった一個の爆弾で何万という広島の人の命が失われました。私は命は大切なものだと思います。その大切な一つ一つの命が一瞬にしてうばわれてしまったのは、とても悲しいことだと思います。そして、原子爆弾によって、大切な家族や友人をうばわれた人はもっと悲しかったでしょう。

私は、世界中の国が戦争や原子爆弾、核兵器の使用をやめると世界は平和になると思います。私は、広島に落ちた原子爆弾のおそろしさを知りました。だからこそ、これからも世界がずっと平和であることを願います。

平和について学んだこと

久津川小学校　6年
田村渉真

ぼくは、7月26・27日に広島へ原爆のおそろしさ、原爆体験者の話とかを聞きに行きました。

まず、平和記念館へ行きました。そこからきめられた場所を班で行動しました。そして歩いて行くと写真みたいなものが、ありました。そこにあったのは、原爆のあとの写真でした。その写真は、家がすべてくずれていて、木は、黒くそまっていました。次に移動したら、原爆がおちてとてもひがいを受けたところは、赤でぬられていて、だいぶひがいを受けたところは、オレンジにぬられ、しわけがしてありました。その図を見ていると、どこまでひがいをうけたのかということが、よくわかりました。次の場所は、もともとの原爆ドームのもけいと、原爆が落とされたあとの原爆ドームのもけいがならんでいて、いっしゅんでこんなにはかいするなんて、とてもはかい力が強くて、とてもこわいと思いました。そこでいろいろ見て、次に講話を聞きました。

そこでいろいろ思ったことはあるけど、いんしょうにのこったことが2つあります。1つ目は、朝あそんでいた友達が2日か3日後には、おなくなりになったということです。朝あそんでいたのにすぐなくなって、とてもこわいと思ったからです。2つ目は、食べ物の話です。おかわりはなくて、ぞんぶんに食べられないと話できいたからです。まだまだ原爆のこわさの話はあるけど、この2つがいんしょうにのこりました。

その後、りょかんへむかいました。そこでふろに入ったりしました。

2日目は、つるがかざってある所にいきました。いろいろなかざり方をしていて、平和という文字をつるで作ったりして、すごいと思いました。そこで1日目に自分たちの班のつるを集めたものをそこにかざりました。他の班の人たちもかざって、コミセンの人からのつるもかざりました。みんなきれいにつくれていました。かざっている裏がわにもかざっていて、つるで原爆ドームをつくっていたのですごいと思いました。次に追悼平和祈念館で講話を聞いた所とはちがうつうろのところを通って班ごとに見学しました。ずっと通っていくとヘッドホンがある所に着き、そこで、原爆体験者の人たちの、原爆は、どうだったかという話をヘッドホンで聞きました。日記みたいなものでは、おそろしさをかいていたりして、とてもこわくてきけんだと思いました。人の話では、その時のじょうきょうもわかりました。

そしてついに本物の原爆ドームを見に行きました。大部分がこわされていて、塀の中にくずれおちた岩などがありました。いまは、ほきょうもされていました。原爆のこわさがだいぶ分かりました

この2日で、戦争をして勝ったりしても、だれかが死んだりするだけでうれしくないし、食べ物がなくなり死ぬ可能性が増えただけなので、平和は、とても大切なことだとあらためて学びました。戦争は、かんたんにいえばケンカなのでみんな仲良くしたら良いと思います。

原　爆

久津川小学校　6年
千野根　匠　吾

ぼくが、広島派遣団に参加した理由は原爆ドームを自分の目で見たかったからです。

原爆ドームは、写真とか絵では見たことがありました。写真とか絵では、ただ単に戦争は怖い、原爆は恐ろしいとしか言わないけど、実物の原爆ドームは、原爆が落とされた時のこと、原爆の本当の恐ろしさ、まだまだ他にもあるんだろうけど、原爆ドームはこういう大事なことを語ってくれる生きた証人だと思います。ぼくが、この原爆ドームを見たとき、熱風は一瞬だったはずなのに、鉄骨・れんが造りのこの産業奨励館がここまでぼろぼろになるほど、原子爆弾のいりょくは強かったということに気付きました。

こんなにいりょくの強い原子爆弾が引き起こした惨事の証しを、平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館にて実感しました。一番印象深かったのが塊になって溶け、くっついたインクのびんです。４０００℃にもなる熱線なのに、よく全部ドロドロに溶けなかったなと思いました。もう一つおどろいたのは、原爆を投下した国であるアメリカの大統領が広島の平和公園に来た事です。しかも、折鶴を折ってくれていたという事におどろきました。でも、そんなオバマ大統領でも、戦争を始めるための核兵器の発射命令を出せる非常用のカバンを持ってきていたというのは悲しかったです。

平和資料館での見学の後、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館で被爆者の方による講話を聞きました。講話を聞いて一番初めに、今の自分は本当に幸せだなぁと思いました。他にも、第二次世界大戦の時の日本で、原爆が落とされても、生きようとがんばった人を尊敬します。

この派遣団に参加し、学んだことはたくさんありました。この派遣団への参加は、自分の経験が増えたし、すごく自分のためになりました。広島で一番心に残ったのは、「身近ないじめ等をなくしていくことが、平和につながります。」という被爆者の方が言っていた言葉です。

原爆により被爆し、亡くなられた方に対し、黙祷。

戦争の恐ろしさ

久津川小学校　6年
長谷川　海　凪

ぼくが広島派遣団に参加した理由は、友達から声をかけてもらったのがきっかけです。お母さんから原爆の話を聞いたり、説明会に出席して戦争を学びたいと強く思いました。

広島平和記念資料館に行って心に残ったのは、「死の斑点」です。被爆後、顔に斑点が出ている写真を見て、夢に出てき

そうなほど怖かったです。溶けた三輪車やボロボロの服も展示されていて、原子爆弾の強さを思い知りました。

被爆者の話を聞いてわかったのは、原子爆弾が落ちた場所は、全焼・全破壊のうえ、27㎞離れた場所でも屋根が吹き飛ばされるほど、ものすごい威力なのだと知りました。それほど遠くまで被害が及ぶとは思ってもいなかったので、とてもおどろきました。そして、放射能を浴びた後、すぐ体に異変を感じる人もいれば、5年・10年以上たってから体調不良があらわれる人もいたということです。

原爆ドームは、最初は立派な建物で美術展覧会場だったそうです。それが原爆により変化し、ぼくが見た今の形になりました。立派な建物でこの状態なら、人やふつうの家は、ひとたまりもないし、戦争は、やめてほしいと思いました。

ぼくは千羽鶴として思いをこめて鶴を折ったのは、今回が初めてでした。「禎子さんの千羽鶴」のお話を聞いて、これは、みんなで折って作ったほうが良いと思いました。そうすれば、戦争で亡くなった、たくさんの人達のつらい想いを少しでもラクにして、天国で幸せに生きられると思うからです。

戦争は、もう二度と日本や世界でしてほしくないです。一しゅんにしてたくさんの人の命が奪われた。生き残った人も、大切な人・愛する人との別れや、目の前で苦しんで死んでいく人の姿を見たりして心も傷ついている。

ぼくが家族とすごせる・友達と遊べる・生きている幸せは、あたりまえなのではなく、特別なことなのだと思いました。戦争を知らない弟や友達に、今回のことを話して、戦争の恐ろしさと平和の大切さ、ありがたさをみんなで感じたいです。

広島派遣団に参加できて良かったです。ありがとうございました。

広島へ行って学んだこと

古川小学校　6年
朝子　麻衣

私が広島派遣団に参加しようと思ったのは、兄が以前参加していたので、私も広島の原爆について知りたいと思い参加しました。

広島につくと、ビルや木がたくさんで、外国の人もいました。とても明るい雰囲気で、本当にここに原爆が落ちたのかと思えるくらいでした。しかし、平和記念資料館を見学すると、一気に思いが変わりました。

被爆体験者の寺本さんの話では、七時三十一分には空襲警報が解除されたので、みんな普通に学校や仕事へ安心して行きだしていたそうです。しかし、そのみんなが安心しだした少し前くらいに、原爆を落とそうと、アメリカ兵の飛行機が広島の空を飛んでいたのです。その時広島の空が晴れていないと、原爆を落とす場所の確にんができないので、天気と場所の確にんをしていたのです。その日の広島は雲一つない天気。原爆を落とすには最高の天気だったのでしょう。今から七十三年前の八月六日、八時十五分。広島に原爆が落とされ

ました。私は、広島に雨が降っていたら良かったのにと思いました。

記念資料館のおくへおくへと進んでいくうちに、だんだん原爆の恐ろしさが伝わってきました。そこには、血がにじんだワンピース、制服、今にもこわれそうな三輪車が展示されていました。展示物一つ一つにいろいろな思いが残されているようでした。

バスで移動するときに、一つだけボロボロな建物がありました。それは、原爆ドームです。原爆ドームの周りには、たくさんのがれきが残されており、よく見ると中は、鉄のパイプでしっかり支えられていました。写真や展示物、原爆ドームを見ていると、広島の昔の様子がよみがえってくるようでした。

私は今回広島派遣団に参加して、原爆について詳しく知ることができました。蛇口をひねるときれいな水が出て、たくさんの食べ物があり、ずっと家族と一緒に暮らしている。この様な当たり前なことでも、幸せなことだなぁと思いました。戦争や原爆には一つも幸せがなく、ただ、苦しみや悲しみしかない。だから戦争や原爆は二度とあってはいけないと改めて感じました。この先ずっと戦争がおこらないように、また、世界のみんなが平和でいられるようにと思いました。

広島で学んだこと

古川小学校　6年
阪部　颯来

私が、広島派遣団に参加した理由は、戦争や原爆について知らなかったので、くわしく知りたいなと思い、参加しました。

一日目は、平和記念資料館と、資料館地下展示場を見たり、被爆体験者の話を聞いたりしました。

平和記念資料館では、病気の名前や服が展示されていました。初めて見た名前ばかりでした。服はボロボロの物が多くて、やぶれている所がありました。さだこさんが折っていたつるもかざられていて、ふつうの大きさから、とても小さいものまであったので、すごいなと思いました。

資料館地下展示場では、うで時計などが展示されていました。戦争や原爆についての本や資料もあって、勉強になりました。

被爆体験者の話では、体験したことについて、わかりやすくその様子を教えていただきました。話を聞いて、原爆は、おそろしいものだと思いました。落ちたところから、半径2㎞に大きな被害が起きたそうです。その時の食べ物は、多くの人が食べるものだから、「おなかがすいた。」と言っても、はじめにもらった食べ物だけで、おかわりもできなかったり、もらえる量も少なかったそうです。そんな中でくらすのは、

とてもつらいし、悲しいことだと思いました。それでも、生き残れることは、すごいことだと思いました。

二日目は、慰霊碑に花をささげ、原爆の子の像にも折りづるをささげたり、原爆ドームを見たり、追悼平和祈念館に行きました。この中でも、一番心に残ったのは、原爆の子の像に折りづるをささげたことと、原爆ドームを見たことです。

折りづるをささげたことが、なぜ心に残ったのかというと、千羽づるで絵にしたり、文字を表わしていたからです。つるで絵や文字をつくれるということに、おどろいたからです。

原爆ドームでは、他の建物は、くずされてしまっているのに、原爆ドームは、残っているので、とてもがんじょうなものだったのかなと感じました。見たときは、今にもくずれそうだけど、鉄のぼうで、支えられている工夫があって、地震にも強い、原爆ドームだなと思いました。

二日目の昼食は、広島のお好み焼きでした。自分でお好み焼きを作るので、うまくつくれるか心配でした。具を入れる量が多くてびっくりしたけれど、うまくひっくりがえしたり、きじをつくったりできたのでよかったです。

私は、この二日間で、広島のいろいろなことを、学ぶことができました。戦争や原爆は、人々にとっておそろしいものです。今までは原爆の怖さを知らなかったけど、知ることができました。これからも、日本は平和であり続けて、二度と、このような戦争はおこってほしくないと思いました。

広島で学んだこと

古川小学校　6年
澤本紗季

私は広島派遣団に参加して、戦争や原爆のことを学んできました。

一日目は、資料館と被爆体験者の方のお話を聞きました。資料館には、やぶれた衣服や原爆がおとされる前の原爆ドームのもけいなど色々なものが展示されていました。その中で原爆が落ちた所から八キロの場所で被害を受けていて大やけどをしていた人の写真を見て、原爆の被害は城陽市がすっぽり入るほど大きかったんだとわかりました。

被爆体験者の方は、色々な事を教えてくださいました。その話の中で印象に残った話は、戦争で子どもが広いお寺にひなんして食事をしたりするそうですが、数がきまっているからおなかがすいていてもたくさん食べる事ができないという事です。そして、おどろいた事は、山道を通ってひなんしているということがすごいなと思いました。

二日目は、原爆ドームの見学と広島のお好み焼作りと、花と折りづるをささげに行きました。

折りづるをささげに行ったときは、たくさんの折りづるがつってあったので、みんな争いのない平和を望んでいるんだなと思いました。そこで折りづるを使っていろいろな作品を作っていたのがすごいなと思いました。

そして、原爆ドームの見学では、原爆がおとされると建物がこわれたり人がなくなったりすることがわかりました。

そして広島のお好み焼作りではいつも作っているのとはちがって、きじがうすかったのでびっくりしました。めんや具などもとても多く初めての感じでした。とても食べごたえがあっておいしかったです。

私は、この二日間広島でたくさんの事を学びました。そして、戦争や原爆の事では建物がこわれたりなくなった人がたくさんいたので、戦争は絶対したらだめだなと改めて思いました。

広島で分かった原爆のおそろしさ

古川小学校　6年
與那覇　栞　帆

昭和二十年八月六日午前八時十五分、いったい何があったのか。こんなに平和な今では分からない。だけど、そんな分からない中で、私たちに原爆のおそろしさについて教えてくれたのは、広島にある原爆ドームと、広島平和記念資料館などです。原爆ドームは、元々広島県産業しょうれい館でした。そんなたくさんの人々が行き来するような場所がひ害を受け、しかもそこだけでなく、とても広い、四キロメートルというはんいにいた人々、建物、植物、動物などがひ害を受けてしまいました。とても悲しい出来事でした。

原爆ドームは、原爆が広島に落とされたそのしゅんかんから、ずっとそのままにされていて、くずれたかべなどもそのままにされていたので、とてもその時の状きょうを想像する事ができました。私は広島に行く前から、第二次世界大戦や原爆などについて知っていましたが、広島に行ってもその時の状きょうを想像することなんて、できないんだろうなぁ、とか思っていましたが、いざ行ってみると、頭の中に、こんなかんじだったんだろうなぁ、とか思う景色や、声などがうかんできて、とてもこわかったです。だけど、当時はそんな事言っていられないくらい、大変な状きょうだったんだろうな、と私は思いました。その後、この原爆ドームは、原爆のさんかを全世界に伝えるとともに、世界平和のシンボルとして、なんと、一九九六年の十二月に、ユネスコの世界い産一らん表に登録されました。

広島平和記念資料館には、原爆が落ちた時の状きょうや、原爆などがえいきょうして、ボロボロになってしまった服などの、たくさんの物があり、一つ一つに原爆の時の人々の行動などについて、とてもくわしく書かれていました。そして、私はその一つ一つのてん示には、人々の悲しみやいかりがこめられていることに気がつきました。

私は、てん示されている作品を見ていて、とてもショックに感じた物が多かったです。でも、そのくらい大変で、悲しい状きょうだったんだな、と思いました。

私は今回広島に行って、たくさんの事を学習してきました。そして、私は、改めて、戦争や原爆はこわいな、ととても思

いました。そして、私は、こんな出来事を、もうおこしてはいけない!!と強く思いました。なので私は、少しでも平和でいるには、友だちや、周りにいる人たちと仲良くすることが、一番いいことだと思いました。それがきっと、一番の平和への近道なんじゃないかな、と思いました。なので、これからは友だちとなるべくケンカをせず、いつもニコニコたのしい日々を築いていこうと思います。

戦争は勝っても負けても良いことは無い

久世小学校　6年
奥田　颯太

僕がなぜ広島派遣団に参加したのかというと、二年前、学校で友達にすすめられて「はだしのゲン」を読み、四年生の時から、広島派遣団で広島に行きたいと思っていました。そして六年生になり、広島派遣団に参加できました。

広島に着いた時、ビルのすきまに街路樹がたくさん生えていて大変おどろきました。なぜかというと、原爆が落ちてから七十五年間は草木が生えないだろうといわれていたからです。

一日目は資料館に行きました。資料館には、皮ふがやけた人の写真や黒こげになった三輪車を見ました。原爆は三ｍの大きさなのに、あんなに大きい被害になるなんて想像できない程おそろしかったです。

それから、被爆された方の話を聞きに行きました。近所の人と逃げる時、がれきの下から顔だけ出して目をキョロキョロしている女の人を見たそうです。それで僕は思いました。原爆の被害はなくなったけど原爆の悲げきはまだ被爆された方の中にあると思いました。

二日目は原爆ドームに行きました。思ったより大きく、丈夫な建物だけど、レンガが落ち、くずれていたので原爆のあたえる影響の強さを改めて知りました。

それから追悼平和祈念館に行きました。そこには、コンピューターがあり、原爆で被爆した人の話が聞けたり原爆によって亡くなった人の情ほうをけんさくすることができました。けれど情ほうがあるのは、二万人だけで、実際には、およそ十四万人が即死したと聞いて身元の確認ができないほど、誰が誰だか分からないような、亡くなり方をした人がおられたことに、しょうげきを受けました。実際に平和公園には、約七万人の身元の分からない方の大きなおはかがあります。

広島派遣に行く前の七月十四日に文化パルク城陽で行われた平和のつどいで、城陽市に住んでいる被爆体験者の方の話を聞きました。

その話では、家は原爆が落ちた所から二㎞位はなれていたのに、ドーンという音に続いて空が暗くなり、かべにかみなりのような光がはしったと聞きました。

そして、その方は、奇せき的に無きずでしたが、一緒に話をしていたお父さんは庭まで飛ばされ、お母さんは、ガラス

が六十四か所ささっていました。それを聞いてその方はとても運がいい人だと思いました。最後に言っていたことは、「戦争は勝っても負けても良いことは無い」という言葉でした。

今回広島に行って、その言葉の意味を知りました。僕も広島に行って体験したことをみんなにつたえたいです。

広島派遣団に参加して

久世小学校　6年
黒川　壮

ぼくが、なぜ広島派遣団に参加したかというと、歴史の本などで戦争の本を読んだりしていたけれど、広島に原爆が落とされたことによってどのような被害があったのかなどを、広島に行って実際に見てみたかったからです。

一日目は、初めに平和記念資料館にいきました。資料館には、被爆したビンと被爆をしていないビンがおいてありました。被爆したビンは熱でグニャグニャになっていました。原爆でやけどをした人や、放射線によって病気になっている人の写真なども見ました。爆風のせいでかたむいている建物の写真などもあったし、ボロボロになった服などもかざってありました。八時十五分で止まっていた時計なども見ました。資料館で見たものは、どれも原爆のおそろしさが分りました。

次に被爆者の方の講話を聞きました。話をしてくれた方は、原爆が投下される数日前まで学童そかいで遠い所にいたのですが、高熱が出たのでお母さんにむかえにきてもらい、広島へ戻り、病院でみてもらうことになって、病院に行く途中にあるポストに入れる手紙を書いている時に被爆したそうです。その後、近所のおばさんといっしょに、町にひ難したそうです。その町で、遠くで働いていたお父さんと会い、夜はお父さんのお姉さんの家でねました。自分のねていたふとんには、ガラスが付いていたそうです。きず口にはウジがわいていたので、塩水で洗い流したそうです。お母さんはお姉さんに見つけてもらえたが亡くなっていたそうです。診りょう所で、朝遊んでいた友達が、体中に大やけどをしていた所を見たそうです。悲しかっただろうなあと思いました。広島に行くのを2日後にしたらと言われた時、そうしていれば、お母さんは死なずにすんだと後かいしたそうです。自分のせいでお母さんが死んだと思うと、ぼくも苦しくなりました。

二日目は、原爆ドームに行きました。原爆ドームの中には、ドームを支えている鉄の棒が大量にありました。あの原爆ドームがたえたなんて、とてもすごいと思いました。慰霊碑からは、ちょうど平和の火とドームが見えていました。平和祈念館では、亡くなった方の年れいや、写真、学校などのことがかいてありました。最後の方に、最期にどんなことを言い残したかなどが分かる所がありました。ぼくは、とても悲しい気持ちになりました。もう二度とこんな事は起こってはいけないと思いました。

楽しみにしていたお好み焼き体験では、具を混ぜるのではなく、きじの上にのせるやり方でした。いつもとはちがって、

おいしかったです。

今回の広島派遣団でいろいろな事を学びました。原爆は、生き残った人も後い症によって苦しむ事も分かりました。だから広島の事を教訓にして、戦争をなくしてほしいと思いました。そして、このことを伝えていきたいと思いました。

広島に行って

久世小学校　6年
松　井　一　真

ぼくが、広島派遣団に参加した理由は、祖父母が広島に住んでいるので、何度も広島には行っていますが、原爆については詳しくは知らなかったので、広島派遣団に参加しようと思いました。

広島に行って学んだことは二つあります。一つ目は、原爆の恐ろしさを知りました。たった一つの原爆で、たくさんの命が奪われ、また、原爆の放射線によって、今も苦しんでいる人たちがいると知りました。爆心地またはその近くにいた人々は、火傷を負い、また、燃えるものは全て燃えた、と聞きました。資料館などで、グニャグニャになったガラス、瓦などを見ました。ものすごく高温だったんだな、と一瞬で分かりました。こんなに恐ろしい核兵器を持っている国は、残念ながらまだあります。なるべく早く核兵器を放棄してほしい、と思いました。

二つ目は、広島はすごい、ということを学びました。何がすごいのか、というと、アメリカ軍が、広島を調査して、原爆が投下されてから七十年間は草木が生えないだろう、と言っていたそうですが、今では、草木も生え、本当に原爆が投下されたのか?と目を疑うくらい、活気にあふれていました。また、城陽市にはない、大きなビルもたくさんありました。広島はアメリカ軍の予想をはるかに超え、日本でも有数の都市となりました。これは人々の努力によってできたことだと思いました。このようなことがすごいと思いました。

ぼくは広島に行って考えたことがあります。原爆を投下する候補地に、京都もあったそうです。それを資料館で知って、他人事ではないな、と思いました。もし京都に投下されていたら、ぼくの母方の祖父は、京都市内に住んでいたので、ぼくは生まれていなかったかもしれません。だからぼくら京都の人たちや、ほかの地域の人たちも、皆が原爆のことを知り、伝えていかないといけないと思いました。

今回、広島派遣団に参加して、二度と戦争はしてはいけない、と思いました。戦争をして良いことはない、と改めて感じました。

広島で、学んだ事

久世小学校　6年
宮　野　颯　士

僕がこの広島派遣団に応募した理由は二つあります。一つは、前から行ってみたいなぁと思っていたのと、二つ目は、小学校の図書室で、「はだしのゲン」を読んで興味があったからです。

一日目、平和記念資料館を見学しました。そこには、原爆の大きさや、原爆が落ちた直後の広島の写真や、八時十五分に止まった時計などがありました。それを見て、原爆は一瞬にして町や人、何もかもうばうのだと、改めて思いました。原爆の熱で、皮ふがはがれたり垂れさがったり、ビンが変形したり、とても怖かったです。

被爆された方のお話では、燃え上がる炎、死体が流れる川、黒い雨の話が印象的でした。僕は、広島派遣団の代表で講話して下さった方へお礼の言葉を言う時、心臓の音が聞こえてくるくらい緊張しました。

家で折ってきた千羽鶴を、夜に、班ごとで束ねて、二日目に禎子さんの原爆の子の像へささげました。僕は、たくさんの人がささげている千羽鶴の多さにとてもおどろきました。

近くにある、平和の灯の「核兵器が地球上から姿を消す日まで燃やし続けよう」という説明を聞いて、なるほどなぁと思いました。昔では近代的な建物だった原爆ドームは、爆心地から、すごく近いのに、崩れそうだけど、これだけ残ってるのがすごいと思い、改めて戦争の怖さがわかりました。

そして、帰る日には、みんなで、広島風お好み焼きをつくって食べました。僕は、広島風お好み焼きをつくるのが初めてだったので、とても楽しみで、とてもワクワクしていました。お好み焼きの材料は、キャベツや、めんや、魚ふんや、たまごなど、いろいろあってたのしかったです。でも、お好み焼きをひっくりかえす時は、むずかしかったです。だけどとてもおいしかったです。

そして僕は、今回の広島派遣団に参加し、自分の目で見て戦争の恐ろしさや悲惨さを感じました。もし、あの日僕が広島にいたら、どうなっていたんだろうと思いました。

広島を通して

久世小学校　6年
宮　野　楓　吾

ぼくが、広島派遣団に参加した理由は、二つあります。一つ目は、双子の兄が、広島派遣団に参加すると、言っていたからです。もう一つは、ぼく自身が、学校で「はだしのゲン」を読んだ事があって、原爆のことを知りたかったのと、興味を持っていたからです。

一日目は、平和記念資料館と、資料館地下展示場へ行き、

被爆者の講話を聞きました。平和記念資料館・地下展示場を見学して、戦時中では、食料不足になったり、若い学生が兵士として、戦争につれて行かれ、たくさんの人が死んだということは、今では、とてもありえません。今では、ご飯を好きなだけ食べられたり、好きなだけ遊んだりしています。戦争は、今では考えられないくらい、とても悲しくて、とても悲惨であることを知り、いかに、今が幸せかを、はだに感じました。ほかにも、被爆した方の服や、お皿が残っていたので、すごいことだなと思いました。

被爆者の講話を聞いて、原爆が落ちたしゅん間に、ピカッと光って、目を開けてみると、いろんな人の皮膚がただれ落ち、川は、水を求める人であふれかえっていたと聞いて、戦争は、改めて、とても怖いことだと思いました。

一日目の夜、家で折ってきた千羽鶴を、班ごとに束ねました。束ねる時に、メッセージも書きました。ミーティングで、一日をふり返ったりしました。

翌日、原爆の子の像の所に行き、折り鶴をささげました。そこで、おどろいたことは、多くの千羽鶴の数です。しかも、かざられているのとは別で、もっと千羽鶴があることを知り、それほどたくさんの人が、平和を願っているということを、すごく感じられました。

ほかにも、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行って、思ったことが、たくさんの人が死んだということは分かっていたが、ぼくの想像をはるかにこえているほどの数だったので、とてもびっくりしました。

今でも、ちがう国では、戦争が起きています。日本だけではなく、世界中が平和になるようにしていきたいです。そのために、広島で学んだことを、たくさんの人に伝えていき、戦争を起こさせないように、していきたいです。

原爆のおそろしさ

深谷小学校　6年
大塚　奈稀

私がこの広島派遣団に参加した理由は、兄が一度行ったことがあり、とても楽しかった、原爆のことをよく知れたと言われ、行ってみたいと思っていたからです。

バスに乗って五時間ぐらいたつとようやく広島につきました。バスからおり、周りを見わたすと、とてもびっくりしました。その理由はテレビや説明の本で見ていたものよりも緑がほうふで、とてもキレイな街だったからです。

一日目の初めは資料館に行きました。音声ガイドを聞きながら館内を回りました。音声の他にも、原爆でとけてどろどろになったビンや、血がついている服もありました。色々なものを見て回り、原爆のおそろしさがとてもわかりました。次に、被爆された方のお話を聞きました。原爆が落ちた後は草木が生えなかったり、八月六日の原爆の落ちた日は、雲一つない、キレイな青空だったので、原爆が爆発するしゅんかんを見られたり、どこに落とすかがわかるのでキレイな青空

の広島に落としたことや色々なことを教えてくださいました。

二日目は、原爆の子の像にみんなで折った折りづるを捧げました。私たちの他にも色々な小・中・高生の折りづるがかざられていました。次に、原爆ドームに行きました。原爆ドームは元の形とはほとんどちがっていたけれど、残っていること自体がとてもすごいと思いました。その後、追悼平和祈念館に行きました。平和祈念館では原爆でなくなった人の写真や名前がスクリーンにうつし出されたり、なくなった一部の人の話をスクリーンで見たりしました。

そして、帰りのバスからさまざまな人が捧げたたくさんの折りづるが見えました。私はそれを見てとても感動しました。こんなにも広島の人たちのことや、原爆でなくなった人たちのことを思ってくれているんだなととても感動しました。

私はこの二日間でとても多くのことを学ぶことができました。急性障害や、後障害のおそろしさ、かく兵器のおそろしさなどたくさんのことを知り、とても心に残りました。私はこの二日間のことを忘れません。そして、もう二度と日本に原爆が落ちてほしくないし、外国でも今すぐ戦争をやめてほしいと思いました。私たちがしている生活はふつうの生活ですが、これは神さまがくれた大事な生活なのです。このことを大事にし、これからもっとこの広島での出来事を他の人に伝えたいと思いました。

広島派遣団に参加して思ったこと

深谷小学校　6年
大森　咲和

私が、広島派遣団に参加した理由は私の姉が参加したことがあり、行ってきたらと言われていたのと、友達にさそってもらって、私も原爆について知っておいた方が良いなと思ったからです。

一日目に、平和記念資料館を見学したり、被爆体験者の話を聞きました。

資料館には、ボロボロになった服や、皮ふが垂れ下がっている人の写真や絵などがありました。私はやけどと言っても皮ふが垂れ下がるほどだと思っていませんでした。なので、写真や絵を見たとき思わず、立ち止まりました。この時、こんなことはあってはならないと思いました。

次に被爆体験者の話を聞きました。その時に印象的だったのは、人が半年の間にどんどんなくなってしまった急性障害や、被爆して何年もたってからなくなってしまった後障害のことでした。約十四万人の人々が原爆のせいでなくなられてしまったと思うと、胸がしめつけられました。その人自身も、家族の人も辛かっただろうなと思いました。

二日目は、原爆ドームなどを見学しました。原爆の子の像にも行き、折りづるをささげました。原爆の子の像には、つるで絵を描いていたり、千羽づるがありました。原爆ドーム

は今にもこわれそうでした。ですが、くずれる寸前でとどまっているように私は思いました。このドームを見て、人それぞれ、いろいろなことを思うだろうなと思いました。なので、これからもこのドームを残していってほしいなと思いました。

二日目のお昼ご飯は、広島風お好み焼でした。なん層にもなっていて、大阪のお好み焼とはちがいました。自分で作って食べたのでいつもよりおいしく感じました。

私は、この広島派遣団に参加して、平和記念資料館を見学したり、被爆体験者の話を聞き、改めて戦争は絶対にあってはいけないものだということを強く感じました。そして、家族や友達がいるのは、幸せなことだということや、毎日、三食ご飯を食べられていることは日本が平和だからだと思いました。

私は、このような平和な生活が続いてほしいです。そして、原爆のようなことが二度とないようにしてほしいです。

初めて見た原爆ドーム

深谷小学校　6年
嶋　原　咲太朗

ぼくは、城陽市広島派遣団に参加し、初めて原爆ドームに行きました。ぼくが広島に行こうと思ったきっかけは、前から本などで原爆の事を知っていたからです。

実際に原爆ドームの周りに行くと、今でも、大きい岩や石などが当時のまま残っていて、中の方がとてもリアルな感じになっていました。また、平和資料館では、広島の人々の血がにじんでいたワンピース、さだ子さんの折りづるなど、様ざまな物がてんじされていました。てんじ物の中でも一番心に残っているのは、ボロボロになった軍服です。その軍服を見た時、一発の爆弾で、ここまでボロボロになり、穴だらけになるとは思ってもいなかったのです。

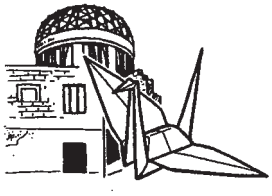
他にも、アメリカのオバマさんのつるがありました。ぼくは、当時、いったいなぜ、なんのために、原爆を落とすという危ないことを、広島でされたのかを知りたくてたまらなかったです。

一日目、平和公園に行った時、およそ7万人もの、だれのものかわからない遺骨が、平和の丘のひつぎに入っていると聞いて、リトルボーイの力がどれほど人々を苦しめてきたのかがよくわかり、それとどうじに、リトルボーイ、そして戦争の恐ろしさが心にひびきわたってくるようでした。バスガイドの方が言っていましたが、公園にある平和の火は、世の中の争いなどがなくなるまでは、消えないそうです。

慰霊碑では死んでしまった人に向けて菊の花をささげました。この時、自分はもう二度とこのようなことがおこらないように、そして妹やいとこにも、このことを伝えていけるようねがいました。

その夜8時のミーティングで3班の三人で、願いをこめて、ていねいに折ってきたつるをたばねて、自分たちが感じたこ

とを発表しました。
　二日目に平和の子の像の所まで行きました。写真で見た時より何倍も大きく、下には黒い文字がほられた石が置いてありました。そして、みんなで、ものすごい数のつるのたばを、ボックスの中のフックにかけました。
　その日のお昼はバスで十分ぐらいの場所にあった広島焼きのお店がずらりとならんだ所にあるホープというお店で、自分たちで作り方をおしえてもらって広島焼を焼きました。そのお店の店主は女の人でわかりやすい手順でゆっくりと教えてくれました。自分たちで作る昼ごはんはコーラとあいしょうばつぐんで、何枚も食べられるようにおいしかったです。特に、友だちと食べると、とてもおいしかったです。
　その後バスに乗り、高速道路を使って城陽に帰りました。途中の売店では、家族やおじいちゃんなどにいっぱいおみやげを買いました。城陽につくと、そこには参加者の親がいっぱい集まっていました。そして、その日の夕食では、家族に、この二日間にあったことやこわくなったこと、友達ができたことなどを、話しきれないほどずっとしゃべりました。この派遣団に参加して、戦争などを知り、これからもいろいろな人に伝えていきたいなと思いました。



世界が一つに

寺田小学校　6年
西村香歩

8月6日、8時15分に原爆がおとされました。
　わたしは、友達にさそわれて、広島派遣団に参加しました。広島記念公園に入ると、原爆に関する像がたくさんありました。そのよこにも、折りづるがたくさんおいてありました。わたしは、像を見ただけで、それほど大きな出来事だったんだなぁと感じました。
　広島に着き、バスからおりると、平和記念資料館の見学をしたり、被爆者の話を聞いたりしました。資料館の見学をするだけで原爆のおそろしさが伝わってきました。でも、被爆者のお話を聞くと、もっとおそろしさ、くるしさ、こわさが伝わりました。やっぱり一番原爆のおそろしさが分かるのは、原爆を実際に体験された方のお話だと思いました。でも、被爆者のお話を、同じ言葉などで、１０００年後に話すことは大変むずかしいし、ほとんどムリだと思います。でも、追悼平和祈念館の体験記閲覧室の様に、データに入れておくと、何回でも聞けるし、パソコンなどでせっていをすれば、日本語以外でもたくさんの国の言葉で聞くことができます。
　直せつ被爆者の方から聞くことも大切だけど、こういったパソコン・タッチパネルで聞くことも、戦そうのおそろしさをこれからも世界中の人々におしえられる一つの方法だとい

うことを、おぼえておきたいなぁと思いました。
　平和記念公園を歩いているとき、ここで、原爆にあってたおれていたのだと思うと、こわくてこわくて、しょうがなかったです。わたしは、実際に戦そうにあった寺本さんの話をきいて、一番心にのこった言葉は、「いじめ、さべつは平和をつぶすこと。だからそういうことをしている人たちに、それは平和をつぶすことだとわたしたちが言うことが大切。それが、日本、世界、平和を守ることになる。」という言葉で、そのとおりだなぁと私は思いました。そして、自分でも、日本を、世界を、平和を守ることができるのだと、寺本さんに、たくさんのことを学ばせていただきました。とても勉強になりました。
　私は、広島に行って、戦そう・原爆のおそろしさ、平和がどんなに大切なことなのかが、よく分かりました。私は、広島の原爆から、戦そうをしても、なに一つ良い事がないし、嬉しくもないと学びました。かっても、ぜったい死者は、いる。まけてもいる。同じ人類なのに、ころしあってなんのいみがあるの？みんな見た目などは全くちがうけど、みんな人、みんな仲間、みんな同じ。そして私のねがいは、世界が一つになること。

平和は幸せ

寺田小学校　6年
森本　もも

私は広島に着いて、本当に原爆がおちたのはここだったのかと思うぐらいおどろきました。
私はこの広島に行って、いろんなことを学びました。
一日目は資料館を見学したり、被爆体験者の人の話をきいたりしました。
資料館では、写真や実物があり、それを見ると私はとても残念な気持ちになりました。私は、三輪車が1番心に残りました。
被爆体験者の人の話を聞いて、はじめはとても平和な広島だったのに、原爆がおとされてからはとてもざんこくな町になって、とても大変な広島になって、とても苦労した1日1日の日々で、とてもかわいそうだなと思いました。
人々は食べる物も飲む物もなくなり、私はふだんできていた生活ができなくなるというのは、とても大変だったのではないかなと思いました。
原爆がおちて、とても熱い物にふれて、ひふがたれるというぐらい熱すぎる温度だったのかなと思いました。私は、その話をきいてとてもとりはだがたちました。
二日目は、原爆ドームに行きました。
原爆ドームは、しっかりしたがんじょうな建物だったのに、

ガラスもなくなっていて、建物の上の所もかけていて、そんな原爆ドームを見て、原爆はとてもおそろしくて危ない物なんだなと思いました。

また、原爆死没者慰霊碑にも行きました。

お花をささげる時、なくなった人の気持ちを考えると、とても心が悲しくなってきました。

他にも、原爆の子の像へも行きました。

この像の後ろには、折りづるがいっぱいかざってあって、他の人の折った折りづるを見てたら、とてもいろんな人の悲しい気持ちが伝わってきて、心がとてもちくちくして、胸がとても痛くなりました。

私はこの2日間で、原爆のおそろしさを知りました。

私は広島に行く前はこんなに大変だとは思ってもいませんでした。実際広島に行くと、想像をこえるほどおそろしい原爆でおどろきがいっぱいの2日間でした。だけど、なぜこんな平和で笑顔いっぱいの広島に原爆をおとしたのか私は気になりました。これからも、広島みたいに原爆がおちないように、広島だけでなく、日本中が幸せな町であってほしいなと思いました。

原爆について学んだこと

寺田南小学校　6年
浅尾千尋

私は、この広島派遣団に参加して、戦争や原爆のおそろしさ、平和の大切さについて学びました。

一日目、広島に着いたとき、現在の広島の景色を見て、本当にここに原爆が落ちたのかと目を疑うほど、緑いっぱいのきれいで平和な広島でした。

でも、資料館の展示物を見たときに、昔の広島はこんなのだったのかと思い、原爆のこわさがつたわってきました。一番心に残ったのは、黒こげになった服です。当時、その服を着ていた人は、もちろん亡くなっただろうけど、服でもまっ黒こげなのに、人は、どんなに熱かっただろうか、どんなに苦しかっただろうか、そんな思いがこみあげてきて、とても胸がいたくなりました。

ほかには、くにゃっと曲がっているビンがありました。原爆が落ちる前のビンと比べると、ものすごくとけていて、ガラスでもとけるぐらいの熱ってどれぐらいの熱なんだろうと、想像もつかなかったです。

そして、被爆者の人の話を聞きました。その方は、原爆でお母さんが亡くなったそうです。家族が亡くなるなんて、とても悲しいことだし、自分も被がいを受けたそうです。この話を聞いて、原爆は人々の体と心がきずつくものなんだと分

かりました。
　二日目は、原爆ドームを見ました。原爆によってこわれているところがたくさんあったし、上の丸くなっているところは、中がなかったです。もとは、大きくてじょうぶそうだったのに、いっしゅんのうちに、こんなにひどくなったのでおどろきました。
　原爆の子の像も見ました。その像になっている禎子さんは、被爆後も元気だったのに、何年も過ぎたあとに、原爆があったことにより病気で亡くなったそうです。ほかにも同じような人はたくさんいて、今も苦しんでいる人がいる、と考えると、かわいそうでしかたがありませんでした。
　そのあとは、祈念館に行きました。そこには、原爆死没者の写真を見たり、体験記などを読むところがありました。まず、死没者の写真を見ました。赤ちゃんから老人までの写真がありました。特に赤ちゃんは、痛みにたえられず、泣きもせず死んでしまったかもしれない、もし生きていたとしても、自分だけでは何もできない、そう思うと悲しくなります。
　次に、体験記を読みました。自分だけは助かって、家族をみんな失ってしまった話、たくさんの被害を受けた話など、いろんな話を読みました。かわいそうだとは思ったけど、私は、その被爆者が生きていてくれてうれしかったです。
　今まで当たり前のようにあった平和が、いっしゅんのうちにうばわれるのはいけないこと。だから私は、世界から戦争、核兵器がなくなること、平和が続くことを願っています。

ヒロシマの命

寺田南小学校　6年
髙橋　美葵

　私は、二日間の広島派遣でたくさんの初めての発見や、体験をすることができました。なぜ私が広島派遣団員に応ぼしたのかというと、6年生として、中学校に向けて、戦争の知識を増やせたらと思ったからです。
　私は、正直、広島の原爆を甘く見ていました。一日目は、平和記念資料館に行きました。一応勉強はしたのですが、文章で想像した広島より、何十倍も、おそろしくて生々しい展示物がたくさんありました。私が一番心に残ったのは、三輪車とワンピースです。三輪車は、黒こげで、想像するのもこわかったです。ワンピースは、花がらの、かわいいものでしたが、かたやこしのあたりがやぶれ、血がにじんでいました。ガラスがたくさんささって亡くなった女の子のものだそうです。もし自分がこの人の母親だったらと思うと、胸が痛いです。痛かったろうね、としか、かける言葉は見つかりません。全身やけどで黒こげの人や、顔にはん点がある人、ケロイドになった女性など、生々しい写真がありました。後からの病気の方が、ずっとずっとおそろしいものと気付かされました。自分はいつ死ぬんだろうと、おそれながら生きているのはたえられないと思います。
　二日目は、原爆死没者慰霊碑へ行き、花をささげました。

慰霊碑の真上に、はとが乗っていました。原爆の子の像では、つるをささげました。その後、祈念館へ行きました。体験談が読める所があり、みんなそこで読んでいました。あるかんご婦の方は、自分もかみがぬけている、という仕事仲間ばかりで、「今日死ぬんかな、明日死ぬんかな」と言い合っていたそうです。私は、そんな心境の中でもかん者のお世話をするなんて絶対できません。「今日死ぬ？それとも明日死ぬん？」なんて考えたことなくて、命の大切さを学びました。

お昼ごはんで、お好み焼体験をできて楽しかったです。帰りのバスの中では、行きよりもにぎやかでした。大切な仲間と学べてよかったです。

戦争は、こわいもの、原爆も、こわいものとしか考えていなかった私は、「そこに命があった」ことを遺品などから学びました。これ以上、こんなひどい過ちをくり返さないよう、もっと広島で学んだことを伝えていこうと思います。

広島に行って

寺田南小学校　6年
髙　山　ひなた

私が、広島に行ったのは今回で二回目です。そして、改めて、広島原爆について学ぶことができました。

「戦争は、二度と起きてはならないこと。」戦争を知らない人たちに、私が一番伝えたいことです。その、一つの出来事で、十万人以上もの人が命をうばわれました。今、日本では戦争が行われていないけど、私は、時代がすぎていって、なくなっていったものではないんじゃないかと思います。

一日目は、資料館に行き、被爆体験者の人の、講話を聞きました。八月六日、午前八時十五分。「ピカッ」と光り、「ドン」と音がなったしゅんかん、人々は、恐怖を感じることもなく、命をうばわれました。周りの人は黒くこげ、ひふはただれ、熱くて川にとびこみ、なくなっていく人たちのことを考えると、とても胸が痛くなりました。そして、放射線による被害で、少しずつ、少しずつ死にむかっていってしまう人もいて、本当にこんなことは、起きてはならないことだと思いました。

夜のミーティングでは、みんなが平和になることを願い、折ったつるをつなげ、メッセージを書き、次の日に平和記念公園でつるをささげました。その後に見学した原爆ドームは、今でも、その日の悲劇を私たちに伝えているようでした。

「戦争」は、人々の幸せをうばいました。日本では、今、戦争はないけど、外国では、まだ行っているところがあります。そして、私が大切にしなければいけないと思うのが、「戦争に立ち向かう勇気」です。外国では、人々が学校に通うけん利について、ブログなどで一生けん命発信し、自分が命をねらわれ、実際に命を失いそうになったけれど、立ち向かったという人がいます。その、立ち上がる一歩の勇気が大切で、平和を守っていくことが、私たちが今できる、一番大切なことなんじゃないかと思います。

戦争を知っている私たちは、知らない人たちに、戦争の悲劇さを、伝えていかなければいけません。「もう二度と、このようなことを、起こらせないために。」

戦争の恐ろしさと平和の大切さ

寺田西小学校　6年
中村煌生

ぼくは、友達にさそわれて広島派遣団に参加しました。もともと戦争があった事は知っていましたが、広島の事や原爆の事などはあまり知らずに参加しました。

広島に行く前に、家で千羽鶴を折って準備しましたが、その時はただ平和のためにと思って折っていただけでした。しかし、広島に行って、折り鶴を折る意味が分かりました。たくさんの折り鶴がありましたが、一羽一羽に人々の平和に対する思いや、戦争が二度とおこってほしくないという祈りが伝わってきました。実際に現地で話を聞き、広島に原爆が落ちて、どんなひどい状況だったかが分かりました。

ぼくが一番心に残ったものは、焼けこげた三輪車でした。小さい子どもが一瞬で爆風に飛ばされて、ぎせいになったと思うと、とてもかわいそうでした。他には、原爆が落ちた時の服や靴が展示してありました。全部が焼けこげていて、穴が空いている物もありました。血の染みは全体に広がっていて、ひさんだなと思いました。原爆の熱で形がゆがんだビンがあり、爆発の威力はとてもすごいなと思いました。

資料館の展示写真には、怖く感じるものもありました。石の階段で、もたれていた人のかげが残っていました。一瞬で体が焼けて死んでしまったと思うと、原爆の恐ろしさを感じました。他に、目に異変がおきた人の写真が、怖かったです。

被爆者の方の体験談は、ぼくが知らなかった事をたくさん聞けました。原爆が落ちて、熱でひふが垂れている画像や、やけどを負った人の写真も見ました。放射能の影響で、髪の毛が抜けたり、体に異変がおきてたくさんの人達が死んでいったんだと知りました。

爆弾が落ちた事で、今までの幸せな暮らしが、被害や災難ばかりおこって、本当に戦争はおこってほしくないと思いました。

今回の広島派遣団は、とても勉強になりました。もし、今、戦争が始まって、京都に原爆が落ちたら、大切な家族や大好きな友達が亡くなるし、家や学校もつぶれるから悲しいです。

ぼくは、サッカーを頑張っているし、勉強や英語の塾もとても一生懸命しています。ぼくが今まで頑張ってきたことが、すべて無駄になるし、友達や家族と二度と会えないと思うととても辛いです。広島の被爆体験者の方は、そんな、生きていくのも辛いような体験を乗り越えて、ぼくたちに平和の大切さを伝えてくれました。ぼくたちは、二度と戦争をおこさないように、戦争の恐ろしさと、平和の大切さを伝えていかなければいけないと思いました。

広島派遣団に参加して

寺田西小学校　6年
森下　悠樹

ぼくは最初、友達に広島派遣団に「いっしょに行こう。」とさそわれました。今まで、広島に行ったことがなく、「原爆」と聞いても、大きな爆弾が爆発して、たくさんの人が亡くなったことくらいしか知りませんでした。この派遣団に参加したら、もっと原爆の事を知ることができて、平和について考えることができるかなと思って、参加することを決めました。

1日目は、平和記念資料館（東館）に行きました。その資料館に展示してあった真っ黒にこげた三輪車や、変形したビー玉やガラスびんにはとてもおどろきました。一しゅんで三輪車を黒こげにしたり、ガラスを変形させたりするほど、原爆はおそろしい力を持っているんだなぁと思いました。物だけではなく、人もたくさん亡くなって、そして生き残った人もケロイドができたり、目がオレンジ色になったりして、ぼくは、こんなものを見た事がなかったので、とてもこわかったです。この人たちはこの後、元気に生きることができたのかなぁと思いました。あと、死者が約14万人もいることにおどろきました。ぼくは、だいたい6万人くらいかなと思っていたけれど実際は約14万人だったので、それほどおそろしいものなんだなぁと思いました。

ここには、オバマ元大統領が実際に折った千羽づるがありました。この千羽づるは、すごくきれいだったので、それほど平和を願って折ったんだなぁと思いました。ぼくは、これまで千羽づるを折ったことはなかったけど、この派遣団に参加する前に「ぼくたちが生きていくこの世界が平和になりますように」と願って千羽づるを折りました。

次は、寺本さんの講話を聞きました。寺本さんは、小5の時に爆心地から1㎞の所で被爆されました。かみの毛がぬけたそうです。外に出てみると、ひふが垂れ下がっている人や眼球がとれている人がたくさんいたそうです。このような話を聞いて、被爆しても、けがをしなかった人はいるのかなぁと思いました。

2日目は、広島平和記念公園に行きました。その公園の中の「原爆の子の像」では、千羽づるをささげました。

その後、原爆ドームに行きました。かべはくずれていて、地面はレンガでいっぱいでした。そして、骨組みが見えている所もありました。73年たっても、全体がくずれていない原爆ドームは、被爆されていない人に、原爆というもののこわさを伝えているようでした。

このように、戦争はあってはならないものだと思います。家族や友達、自分が亡くなったり、けがをしたり、家や学校、食べ物までなくなったり、良い事がありません。戦争はおそろしくて、こわいものということを友達や家族に伝えていきたいと思います。

広島派遣団に参加して

寺田西小学校　6年
矢野脩也

ぼくは、母にすすめられて、広島派遣団に参加しました。ぼくは、戦争について考えたことはありません。知っていることといえば、学校の図書室で、「はだしのゲン」を読んだことくらいでした。

一日目、平和記念資料館へ行きました。ここでは、焼け死んだ人の写真や血のついたボロボロのワンピースなど、とても生々しいものがあり、戦争の悲惨さを感じました。

広島に原爆が落とされた後の人々は、皮ふが火傷で垂れたり、熱さで「水をくれ、水をくれ」と言って、川へ飛びこんだりしたそうです。放射線による被害もあり、目に見えなくても体がおかされ、十年後に症状がでてくることもあるそうです。今では考えられないようなことがおこっていて、とても衝撃をうけました。

戦争を体験した人の話の中で、朝、一緒に遊んでいた友達が、火傷で皮ふが垂れたと話されていて、今のぼくには、信じられないことでした。今のぼくがふつうに友達と遊べることも幸せなことなんだと思いました。

二日目に平和記念公園へ行き、慰霊碑に花を捧げ、佐々木禎子さんの像に折り鶴を捧げました。折り鶴がたくさんありました。これだけの人たちが平和を願っているんだと思いました。

原爆ドームはテレビで見たより大きく、原爆の威力がわかりました。中はがれきの山でした。

最後に広島焼きを作ってみんなで食べました。食べ終わった時、平和になって良かったなと思いました。

家に帰って、原爆について調べた時に、原爆が落とされた理由に「原爆の威力を試したかったから」とあり、とても許せなかったです。原爆が落とされたせいで、たくさんの人々が苦しみ、悲しみました。戦争なんて二度としてはいけません。いいことなんて何もありません。ぼくは、戦争のない平和な時代に生まれてよかったです。しかし、戦争を体験した人がいなくなってきているということを聞きました。ぼくが広島で学んだことは、伝えていきたいと思います。

広島に行き学んだ二日間

富野小学校　6年
島本翠

私は、広島に二日間行って、大事なこと、大切なことをいくつか学びました。そして、原爆の本当のおそろしさを知りました。

まず、私が最初に「えっ」と思ったことは、黒い雨がふるということです。ふだんならぜったいにふることのない雨が

ふる。それをよく考えると、原爆はぞっとするほど、おそろしいものだと思いました。

私は広島派遣団に参加するまでは、原爆がおちてたくさんの人が亡くなったということぐらいしか考えていませんでした。でも、広島平和記念資料館に行き、考えが大きく変わりました。原爆で亡くなった人は私の想像をこえる人数でした。亡くなった人々のその家族や親せきなどの悲しみなどを、今回、広島に行って感じました。大事な人が、たった一個の爆だんで亡くなってしまった。私だったらそんな現実がたえられなかったと思います。それでも、生きのびて暮らしていたのは、とてもすごいなと思いました。それでもやっぱり、大切な人を失ったら、だれだって心が折れるとも思いました。

資料館では、体中にやけどをおった人の写真や、かみの毛が全部ぬけた人の写真などもありました。でも私が一番印象に残ったのは、「サダコと折り鶴」です。サダコさんの折った鶴を見ると、サダコさんの生きたいという気持ちが伝わりました。サダコさんは、鶴を千羽折ると病気が治ると信じ、千三百羽以上折ったのは、どうしても生きたいと願ったから。私は、「どうして、サダコさんは亡くならないといけないのだろう。」そんな気持ちでいっぱいになりました。

私は平和記念公園で、印象に残ったものがあります。「平和の灯」です。人々が核兵器のことをずっとわすれないように両手で包むようにして作られていて、二度と核兵器が使われないようにという願いでもあるようにも思えました。

今回広島派遣団に参加して、二つの事を学びました。一つ目は、無差別に人にくるしい思いをさせても、何の得にもならないということです。人々が苦しんで何が楽しいの、とも思いました。それは、ふだんもいっしょのことだと気づきました。その人を苦しめても何も楽しくなんかない。それをして、世界が平和にならないんだから、そんなことをするなら、もっと世界が平和になることをしたらいいと思いました。

二つ目は、人々の優しさです。今回講話を聞かせてくれた方も、おばさんのおかげでにげきることができたし、たくさんの人が広島に資金をだしてくれたおかげで、今の広島は、あんなに笑顔を取りもどしているからです。今回広島でこんなにきちょうな体験をさせてもらい、ありがとうございました。

広島に行ってみて

富野小学校　6年
早田　彩乃

私は七月二十六、二十七日に「城陽市平和のための小中学生広島派遣団」に参加して、広島に行きました。

私がこの派遣団に参加しようと思ったきっかけは、両親に「参加して、一回でも広島に行って原爆ドームなどを見ておいたほうがいい。」とすすめられたからと、友達が参加をすると言っていたからです。私は、初めは正直、参加するか迷っていました。けど、両親の言葉通り、原爆ドームなどを見て

おいたほうがいいと思ったからです。
　一日目は、お昼を食べて広島平和記念資料館に行きました。本館は工事をしていたので東館を見学しました。音声ガイドの説明や展示で原爆のおそろしさを改めて知りました。展示ではボロボロになった服や、その当時をえがいた絵、ぎせい者の日記、原爆で被害を受けた人達の写真、禎子さんの折りづる、オバマ前大統領が折った折りづるなどがありました。その中には思わず目をふさぎそうになるような物も多くありました。オバマ前大統領が折った折りづるは、人に教えてもらいながら折ったそうですが、そうとは思えないほど、ていねいにとてもきれいに折られていました。原爆をおとした国の大統領がつるを折っているということは、もうその国が原爆をおとすことはないのかなと思いました。
　次に被爆した方の講話を聞きました。被爆によりその年の末までに亡くなった人は約十四万人もいるということを知って、生き残った人はとてもすごいことなんだと思いました。被爆した人は、熱線でほとんどの人がやけどを負って川に入って、広島の川は、い体でうめつくされたといわれていたそうです。その光景はとてもおそろしいだろうと思いました。被爆された方の体験や、七十年間は草木が生えないだろうと言われていたということも語ってくださいました。
　夜、ミーティングで感想を話し合ったり、折りづるにメッセージを書きました。
　二日目に平和の灯を見ました。世界から核兵器がなくなると火は消えるそうです。
　次に原爆の子の像を見て折りづるをささげました。折りづるはとても多くあり、こんなに多くの人が平和を願っているんだと感じました。その後に見た平和の鐘には、国境のない世界がえがかれているそうです。
　そして原爆ドームを見ました。被害を受ける前と比べると大きくちがっていて、原爆のこわさを改めて知りました。
　最後に原爆死没者いれいひに花をそなえてから、追悼平和祈念館に行きました。そこには資料や被爆体験記が画像でしょうかいされていました。その中には、顔がはれている人、皮ふがたれさがっている人などの絵があり、その人のことを考えると、とても苦しかっただろうなと思いました。
　私は今回の広島派遣で戦争、原爆のこわさを知りました。そして、もう二度と戦争が起こらない平和な世界になってほしいと思いました。

広島に行って学んだこと

青谷小学校　6年
一　樹　采　実

戦争は、もう二度と起こってほしくないと思いました。
　七月二十六日と二十七日の二日間、広島派遣団に参加しました。参加した理由は、お姉ちゃんが前に参加していたから、私も行ってみようと思い、この広島派遣団に参加しました。
　一日目は、五、六時間かけて広島に行きました。初めは、

平和記念資料館に行きました。丸こげになった三輪車や皮膚がたれさがった人、着物の柄が皮膚に焼きついた女性の写真など、見ているだけでも悲しくなるようなものがたくさん展示されていました。

その後、被爆者の方からの話を聞きました。原爆の怖さをあらためて感じられました。そして、平和のためには、みんなで協力し、仲良くすることが大切だと教えてくださいました。

二日目は、折りづるや花を捧げ、「一生平和であるように…」と願いました。

それから、原爆ドームを見に行きました。ガラス一枚も残っていなくて、少しさわっただけでくずれそうで、今にもつぶれそうでした。

お昼ご飯は、班のみんなで広島焼きを食べました。初めて、広島焼きを自分たちで作れてよかったし味もとてもおいしかったです。

私は、「広島に行ったことがないし、行ってみよっかな。」という軽い気持ちでこの広島派遣団に参加しました。しかし、平和記念資料館や実際に体験された被爆者の方などの話を聞き、原爆の怖さや戦争の怖さ、そして、戦争により、どれだけ大きな被害を受け、多くの人々が亡くなっているかなどさまざまなことを学べ、軽い気持ちで考えていた原爆や戦争について、真剣に勉強し考えてみようと思いました。

広島に行って学んだこと

青谷小学校　6年
谷口　紗彩

七月二十六日から七月二十七日、広島派遣団に参加しました。そして、原ばくの悲さんさや平和の大切さを学びました。

八月六日、広島に原ばくが落ちました。私は広島派遣団に参加するまでは、原爆や戦争のことはあまり知りませんでした。ちょっと学校で学習したり、家族や、おばあちゃんやおじいちゃんに聞いたくらいでした。

1日目は、資料館の見学に行きました。耳にきかいをつけて解説を聞きました。そこにはほうしゃせんで苦しむ人や、後障害で苦しむ人の写真があったりしました。他にも、焼けた三りん車があったり、やぶれた服やワンピースが展示されていました。その服は、血がついてあるのもありました。それを見て、必死ににげたんだと思いました。他にも、原ばくのことがくわしく書いてあったりしました。

原ばく体験者の方の話を聞いて、最初は、戦争は大へんだったとしか思ってなかったけど、多くの人々がひ害にあったことが、まず初めにわかったことです。これが実さいにおこったのは、七十三年前で、わすれている人もいるかもしれないけど、これがおきたことは絶対にわすれたらいけないことで、もう一生おこったらダメなことです。

平和記念公園にいく時に、ふん水を見ました。そのふん水

は、世界が平和になったら、世界の戦争がなくなったら、出てくる水が止まるそうです。見たときは、止まっていませんでした。早く平和になってほしいです。

広島を知ったり考えたりすることは未来を考えることだと思いました。平和を大切に生きていきたいです。

広島に行って学んだこと

青谷小学校　6年
中嶋由依

私が、なぜ広島派遣団に参加しようと思ったのかというと、お姉ちゃんも参加したことがあって、私も参加したいと思ったからです。

最初、広島についてびっくりしたことは、とてもきれいな町なみだったことです。本当に、七十三年前に、原爆が投下されたのかと思うほどでした。

平和記念資料館に行くと、実際の物や写真、絵が展示されていました。私が一番印象に残っているのが、黒く錆びた三輪車、時間がとまっている時計、黒い雨でした。私は、黒い雨ってどういうことか分かりませんでした。でも、跡が残っている壁を見ると、びっくりしました。うすく、水の流れた跡が残っていたのです。私は、黒い雨がふるほど原爆は怖いんだと分かりました。

次に、被爆体験者の講話を聞きました。体験したことを、絵や図で分かりやすく説明してくださいました。家族がどこにいるのかも分からないような状況だったと聞いて、改めてそれほど大きな被害を受けたんだと分かりました。

二日目には、原爆の子の像にみんなの折鶴を捧げました。たくさんの折鶴が捧げてありました。こんなにたくさんの人が平和を願っているんだと感じました。

次に、原爆ドームを見ました。崩れていたところもあったけど、あの被害を乗り越えてあんなに形が残っているなんてびっくりしました。

最後の昼食は、広島風お好み焼き体験をしました。広島のお好み焼きはいつも家で作るお好み焼きとはちがい、生地は薄く、焼きそばものせました。全部自分で作ったので、すごくおいしかったです。

私は、広島派遣団に参加して、今まで原爆について、あまり知らなかったけど、戦争はこんなにおそろしいものなんだと気づきました。参加して、すごく勉強になりました。

はじめて知った原子爆弾の怖さ

青谷小学校　6年
米田麗央

私は、広島派遣団に参加して、すごく原爆はこわいものだ

と知りました。広島に行く前は、じつぶつで原爆ドームをちゃんと、見たことがなかったから、あまりそういうことは思っていませんでしたが、はじめて見てみてこわかったです。

一日目は、バスで約5時間ぐらいかけて広島へ行って、お昼を食べてから、平和記念資料館を見学しました。色々な物が、やけていたり、さびていたり、かげがのこっているかべがあったりして、「うわ…」と思って、「ちょっとこわいな」と思いました。その当時のままのやぶれたふくや、しょっきなどがあって、すごくびっくりしました。私が見たかった、八時十五分でとまった時計、こげさびている三輪車は、すごくそのころのようすをかんじられるものだったから、ちょっとショックな気持ちにもなりました。資料館を見ただけで、原爆のおそろしさがとてもよく分かりました。地下では、ひばく者の講話を聞きました。講話では、その時のようすや、音、その人が思ったことなどを話して下さったので、すごくその時のことも分かりやすくしてくれたのでよかったです。

夜のミーティングでは、班ごとで、折ってきたつるを1つにまとめて、長いリボンに平和への思いをこめたメッセージをみんなできめてかきました。

二日目は、平和記念公園に行きました。かねをならしたり、みんなが原爆がおちてとびこんだ川の前へ行きました。そのあとに、原爆ドームのちかくまで歩いて、まん前まできて見ました。すごく、きゅうにこわくなりました。

お昼は、広島風おこのみやき作り体けんをしました。ふつうのおこのみやきとは、つくりかたから、ぐざいまで、ちがいました。食べてみるとふつうのとはちょっとちがいましたが、すごくおいしかったです。

広島派遣団に参加して、色々なことを、この二日間で分かり、色々な体けんができました。命の大切さや、食べ物や水の大切さをわすれてはいけないということが分かりました。

「広島派遣団」の一人として

西城陽中学校　1年
南　野　つぐみ

私は今回、広島派遣団の一人として、この取り組みに参加させていただきました。私がこの取り組みに参加しようと思ったきっかけは、原爆について知りたいと思ったことと、色々な人と交流を深めたいと思ったからです。とてもちっぽけな理由ですが、行けた事に感謝しています。

実際に見たりきいたりして、自分が思っている以上に原爆は恐ろしく、悲惨だと思いました。自分の家族や友達が目の前で亡くなっていく、今でもその光景を胸にかかえて生きている人もいます。その中で、私はどれだけ豊かな暮らしをしてきたのだろうと感じます。今、食事を満足に食べられていること、かわいい服を着られていること、この普通の生活がとても幸せだと気づきました。普通があたり前として思えることも感謝したいです。

原爆で被災された方がただ一人でも生きていることは、「あ

たえられた命」のように私は感じます。被爆された寺本さんも大切な一人と思います。原爆は無差別な殺人であり悲惨です。急性障害や後遺症で亡くなる人が十四万人もいたらしいです。それでも、今なお戦争を続けている国があるということは、変えられない事実です。日本も原爆をおとされたのにも関わらず、戦争を再開しようとしていたり、無関心の人も多くいます。その中で、今回私たちが実際に見て、きいて、感じた事を、できるだけ多くの人々に伝えていくことが大切だと思いました。

みなさんにも思い出してほしいです。平和の原点とは「人間同士仲良くすること」です。戦争や原爆は人間が作り出したものです。だからそれをおわらせる、なくすのも人間がやるべきことではないでしょうか。仲良くすることなんて難しくないはずです。対立してもお互いの悪い所しか見えない。その先にはきっと良い所もあるはずです。そこにふみ出すための一歩として「戦争を二度とくり返さない」ということが大切ではないでしょうか。

きっとこういう話をきいて「あっそ」とか「そんなの絶対にあるわけない」と考える人もいると思います。でも、戦争は身近にある恐ろしいものです。これをきいたりした人が戦争について深く考えてくれたら、私も寺本さんもとてもうれしく思います。

最後に伝えたい事があります。それは…「世界中の人達が手をとり合い、仲良くして、二度とこの悲劇をくり返さないように。そしてたくさんの人が平和について考えてほしい。」

広島に行って

南城陽中学校　1年
波戸瀬　あおい

私が、広島派遣団に参加して心に残ったことは、二つあります。

一つ目は、被爆者の講話の時に話してくださった、オバマ前大統領の演説の中の言葉です。

「十万人を超える、女性、男性、子どもたちが亡くなられた。」ということや、「原爆の記憶を後に伝える人は減っていくだろう、原爆の記憶を忘れてはいけない。」ということなどを語られたそうです。私は、このことを聞いて、オバマ前大統領は、自分の国が原爆を落とし、多くの人々を苦しめたことを認めていると分かりました。

二つ目は、一日目の夜にみんなでミーティングをしたときのことです。

その時にみんなの意見を聞いて、それぞれに見方、考え方、感じ方などはちがうけれど、みんな平和を願っていることは確かだと、改めて思いました。

私は、広島に行って、色々なことを学びました。これからも、色々なことを学び、原爆のことをもっと知りたいです。

編集・発行　城陽市　企画管理部　秘書広報課

〒610-0195　京都府城陽市寺田東ノ口16・17
電　話　０７７４－５６－４０５０
ＦＡＸ　０７７４－５２－１１７５
ＵＲＬ　http://www.city.joyo.kyoto.jp/
E-mail　heiwa@city.joyo.lg.jp

再生紙を使用しています。